

金川 仁子

東北大学大学院医学系研究科医療管理学分野 博士課程

在宅サービスが利用者の ADL と介護者の QOL に及ぼす影響に関する実証的研究

本研究は、居宅系リハビリテーション（以下居宅系リハ）の提供が、脳血管障害者とその介護者に与える影響について、機能的自立度と QOL の観点から検討した。また、訪問・通所によるリハビリテーションの同時併用者の心身機能を把握し、在宅療養期におけるリハビリテーションの効果について明らかにすることを目的とした。

全国において居宅系リハを行っている 35 施設の利用者とその家族 214 組（428 名）を対象に縦断調査を実施し、そのうち追跡を完了した利用者 149 名と家族 131 名、合計 280 名を分析対象とした。

その結果、居宅系リハを行うことによって、利用者のセルフケアや移動など、ADL の自立度は向上しており、特に、訪問と通所によるリハを同時期に併用することによって、その効果が高い傾向がみられた。一方で、家族介護者の健康関連 QOL・介護負担感には著しい改善が見られなかった。しかし、心身的に不安定で混乱を来しやすい退院から 6 ヶ月の時期に、介護者の健康関連 QOL は低下することなく維持させることが可能であった。さらに、介護に関わる時間については、リハ開始から 6 ヶ月後には短縮されており、介護の手間が減少している点で、居宅系のリハビリテーションは介護負担感を軽減する手助けとなることが示唆された。